

**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金  
大学院生研究 2017年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院		コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名	
	コミュニティ福祉学部・教授		濁川孝志 印	
<b>研究課題名</b>	立教大学新座キャンパスの生物多様性を高めるための調査および環境整備計画			
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名	
	立教大学コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・2年		奇二正彦 印	
<b>研究期間</b>	2017年度			
<b>研究経費</b>	97,326円			

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

立教大学新座キャンパスの周辺環境の主な緑地や水辺の生物調査を行い、その調査で明らかになった生物が、新座キャンパスとどのような生態的なつながり(エコロジカルネットワーク)を持つ可能性があるかを把握するための生物調査を新座キャンパスで行い、新座キャンパスの生物多様性が向上する環境とはどのようなものかを考察した。調査は、2017年9月3日、2017年11月2日、2018年3月15日の3回。調査場所は、①キャンパス内、②キャンパス外東側にある生産緑地、公園周辺、③キャンパス外北側の東北小学校周辺、④キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺、⑤キャンパス外南側の野火止5丁目にある雑木林。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 生物多様性 ] [ 生態系 ] [ エコロジカルネットワーク ]

## 研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## 1、キャンパス内と周辺地域の生物調査の結果

調査1回目：2017年9月3日

## ① キャンパス内

- ・ 昆虫類 (27種) スズメバチの仲間、セイヨウミツバチ、アシナガバチの仲間、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、キタキチョウ、イチモンジセセリ、オオスカシバ、ホシホウジャク、カナブン、ナミテントウ、ツマグロオオヨコバイ、マルカメムシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、シバズ、カネタタキ、アオマツムシ、アメンボ、マツモムシ、アキアカネ、シオカラトンボ、イトトンボの仲間
- ・ 鳥類 (8種) スズメ、ツバメ、カワラヒワ、メジロ、コゲラ、キジバト、ハクセキレイ、ハシブトガラス
- ・ クモ類 (2種) ジョロウグモ、オニグモ
- ・ 哺乳類 (1種) アブラコウモリ
- ・ 外来種 (1種) ドバト

## ② キャンパス外東側にある生産緑地、公園周辺

- ・ 昆虫類 (7種) アシナガバチの仲間、セイヨウミツバチ、アブラゼミ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、
- ・ 鳥類 (6種) スズメ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ハシボソガラス
- ・ クモ類 (1種) ジョロウグモ
- ・ 外来種 (1種) ドバト

## ③ キャンパス外北側の東北小学校周辺

- ・ 昆虫類 (5種) アブラゼミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ゴマダラチョウ、セイヨウミツバチ
- ・ 鳥類 (6種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、キジバト、ハシブトガラス
- ・ 外来種 (1種) ドバト

## ④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺

- ・ 昆虫類 (7種) アシナガバチの仲間、ミンミンゼミ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、キアゲハ、ナミテントウ
- ・ 鳥類 (3種) スズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラス
- ・ クモ類 (1種) ジョロウグモ
- ・ 外来種 (1種) ドバト

## ⑤ キャンパス外南側の野火止5丁目にある雑木林

- ・ 昆虫類 (18種) スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、ハラビロカマキリ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、シバズ、アオマツムシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヤマトシジミ、クロアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ジャノメチョウの仲間、ゴマダラチョウ、ナミテントウ、カナブン
- ・ 鳥類 (7種) スズメ、シジュウカラ、メジロ、エナガ、ヒヨドリ、コゲラ、ハシブトガラス、
- ・ クモ類 (1種) ジョロウグモ

調査2回目：2017年11月2日

## ① キャンパス内

- ・ 昆虫類 (8種) スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、シオカラトンボ、アキアカネ、シバズ、カネタタキ、ハラビロカマキリ、ナミテントウ
- ・ 鳥類 (5種) スズメ、メジロ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、ハシボソガラス
- ・ クモ類 (1種) ジョロウグモ

## ② キャンパス外東側にある生産緑地、公園周辺

- ・ 昆虫類 (3種) ヤマトシジミ、ベニシジミ、キタキチョウ、ショウリョウバッタ
- ・ 鳥類 (4種) ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシボソガラス

## ③ キャンパス外北側の東北小学校周辺

- ・ 昆虫類 (4種) カネタタキ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、キタキチョウ

- ・ 鳥類 (7種) スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、オナガ、ハシボソガラス
- ④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺
  - ・ 昆虫類 (4種) ヤマトシジミ、モンキチョウ、シバズ、カネタタキ
  - ・ 外来種 (1) ドバト
- ⑤ キャンパス外南側の野火止 5 丁目にある雑木林
  - ・ 昆虫類 (5種) アキアカネ、カネタタキ、シバズ、ヤマトシジミ、キタキチョウ
  - ・ 鳥類 (5種) スズメ、メジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガ
  - ・ クモ類 (1種) ジョロウグモ
  - ・ 外来種 (1) ドバト

調査 3 回目: 2018 年 3 月 15 日

- ① キャンパス内
  - ・ 鳥類 (6種) メジロ、カワラヒワ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハクセキレイ
  - ・ 外来種 (1) ドバト
- ② キャンパス外東側にある生産緑地、公園周辺
  - ・ 鳥類 (4種) ハクセキレイ、スズメ、シジュウカラ、コゲラ
- ③ キャンパス外北側の東北小学校周
  - ・ 鳥類 (3種) スズメ、メジロ、オナガ
- ④ キャンパス外西側の農地、稲荷神社周辺
  - ・ 鳥類 (1種) キジバト
  - ・ 外来種 (1) ドバト
- ⑤ キャンパス外南側の野火止 5 丁目にある雑木林
  - ・ 鳥類 (6種) スズメ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、ムクドリ、エナガ

## 2、新座キャンパスの生物多様性が向上する環境とは

調査は 2016 年に続き 2 年目である。昨年と同じくキャンパス外南側の野火止 5 丁目にある雑木林において多くの生き物がみられた。この「雑木林」という環境は本調査では他でみられない環境であり、調査結果をみても、この地域の生物多様性に大きな貢献をしていることがわかる。この雑木林とキャンパスは、直線距離にして 200m ほどのため、もしキャンパス内にクヌギ、コナラを中心とした雑木林を造成できれば、様々な昆虫、野鳥が飛来すると思われる。また、今年度初めて、キャンパス北側の東北小学校周辺だけでなく、道の反対側にある立教大学の運動場脇の緑地も観察した。この緑地は落葉樹が多く、スズメやシジュウカラ、コゲラなどがよく見られた。このことから、もしキャンパス内に巣箱を設置すれば、樹洞に営巣するスズメやシジュウカラが、営巣してくれる可能性がある。また、キャンパス外の東西は畑や生産緑地が多いため、モンシロチョウやヤマトシジミ、モンキチョウなど、明るい草地を好むチョウの仲間が夏と秋に多くみられた。このことから、もしキャンパスに、ハーブガーデンや秋の七草など、色々な花が咲く花壇ができたなら、本調査で見られたチョウの仲間が飛来すると思われる。このように、人間のためのキャンパスにも、野生動物が利用できる「食べ物」「水」「隠れ場所」という、野生動物にとって生きるための必須要素を配置することで、より豊かな生態系が創出されると思われる。また、2016 年にできなかったこととして夜間調査がある。そこで今年度は、大学キャンパスのみ夜の調査を行った。その結果、昆虫類でアオマツムシとカネタタキ、哺乳類ではアブラコウモリがみられた。アオマツムシとカネタタキはいずれも樹上生の昆虫のため、草地の少ないキャンパスでも生息していたと思われる。アブラコウモリは、日中は家屋の隙間などで寝ており、日没後、キャンパスに生息する蚊などの小さな飛翔昆虫を食べに来ていたと思われる。

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)